

# 幼児の遊びについて

竹田俊雄

## 一

新しい保育における幼児の自發的な遊びの位置は高く評價されていい。保育に従事するものは、幼児がいかなる遊びを行つてゐるかについて、よく認識していなければならぬ。

その一つの資料として、我々が昭和二十一年夏、全國にわたつて調査した幼児生活調査の中、遊びに關するものの一部をここに報告する。これは四歳から七歳までの幼児が、昨日した遊びを、その保護者に個々に面接して叙述を求めたものであつて、面接者には愛育研究所保母および助手、T女子専門學校育兒科、K女子専門學校教育兒科、A保母養成所およびN教員養成所の生徒が當つた。調査の対象である幼児は、今回報告する分は、東京都内六六五名、地方一四七名、合計八一二名で、地方は静岡愛知鳥取佐賀の諸地區にわたつてゐるが、ここには地區的特質は一應考察の外に置くこととする。

## 二

幼児が「昨日した遊び」として報告されたものは三百餘に

上つてゐるが、これを便宜的に次の九種に分類する。

受容的な遊び 繪本を見る・紙芝居を見る・お話をきく・ラジオをきく等

構成的な遊び 積木・切り紙・折り紙・繪をかく・ぬりえ・砂遊び等

運動具的な遊び ぶらんこ・すべり臺・まりなげ・なわとび・かけっこ・鬼ごっこ等

再現的な遊び ままごと・人形遊び・お店ごっこ・電車ごっこ・學校ごっこ等

蒐集的な遊び とんぼとり・魚つり・花つみ等

知的・技能的な遊び トランプ・しりとり・じやんけん・びい玉・めんこ等

不定型の遊び 散歩・ふざける・ぶらぶらする・おしゃべり等

作業型の遊び 幼稚園に行く・あかんぼのお守り・お使い・お手傳い等

回答の表現不確なもの おもちや・庭で遊ぶ・近所の子と遊ぶ等

これによつて調査した幼児の遊びを整理すれば、第一表のようになる。

第一表 昨日した遊びの種類

遊びの種類	4 歳		5 歳		6 歳		7 歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女
受容的な遊び	59.5	33.0	42.7	28.7	36.1	44.0	30.5	34.4
構成的な遊び	33.3	35.2	40.9	18.5	53.3	21.6	50.0	28.9
運動的な遊び	72.6	63.7	70.0	58.3	82.0	68.8	82.9	70.0
再現的な遊び	42.9	87.9	41.8	100.0	36.9	87.2	36.6	85.6
蒐集的な遊び	10.7	8.8	22.7	7.4	31.1	9.6	32.9	11.1
知的・技能的な遊び	3.6	2.2	5.5	2.8	5.7	4.8	12.2	7.8
不定型の遊び	38.1	47.3	42.7	43.5	28.7	34.4	30.5	44.4
作業型の遊び	14.3	11.0	10.9	10.2	8.2	16.8	17.1	8.9
回答の確り 表現あたりの 一人遊びの数	27.4	18.7	25.5	13.9	14.8	9.6	17.1	16.7
	3.0	3.1	3.0	2.8	3.0	3.0	3.1	3.1

この結果によれば、一般に多く遊ばれるものは運動的な遊びであつて、男児においては七〇―八〇パーセントが、この遊びを行い、常に第一位を占め、女児においては六〇―七〇パーセントで、常に第二位を占めている。男児と女児とは、常に男児の方が多く、年齢の進むに従つて、この運動的な遊びは増加している。

次に再現的な遊びは、性別による差異がもつとも多く、女児では常に第一位にあり、殊に五歳児においては一〇〇パーセントこの種の遊びを行つている。これに對して男児では四〇パーセント前後であつて、年齢の進むにつれて幾分減少している。女児の場合も、四歳から五歳に進んで絶頂に達し、その後は減少の傾向にある。

受容的な遊びは、四歳児の場合は、男女の差が多く、男児では六〇パーセントに近く、第二位を占めているが、女児ではすつと下位で、およそ三〇パーセントにとどまつている。そして年齢の進むに従い、男児では著しく下降し、女児では幾分不規則な曲線を示しているが、著しい増減はない。そして六歳児七歳児では、女児の方が男児よりやゝ上位を占めている。

構成的な遊びは、四歳児では男女ほぼ等しく、約三分の一の児童がこれを行つているが、年齢の進むに従い、男児では上昇して五〇パーセントを超え、女児では逆に下降しておよそ二〇パーセントとどまつている。

蒐集的な遊びについては、四歳児では男女ほぼ等しく、約

一〇パーセントにすぎないが、女児が年齢にかかわらずなく、ほぼこの数を持続しているのに對し、男児は年齢の進むに従い上昇して六歳児七歳児では三〇パーセントを超えている。

知的・技能的な遊びは非常に少く、男女児とも、いずれの年齢においても五パーセント前後であり、たゞ七歳の男児のみが一〇パーセントを超えているに過ぎない。

不定型の遊びは、年少児においては男女とも四〇パーセント前後を占めているが、年長児になると減少し、殊に男児では三〇パーセント前後に低下している。

作業型の遊びについては、いずれの年齢においても男女ともおおむね一〇パーセント臺にあつて、著しい差異が見られなう。

これを要するに、幼児期に多く遊ばれる遊びの種類は、運動的な遊びに屬するものであり、女児においては、この外、再現的な遊びに屬するものがこれをしのいでいる。年齢的に一般に上昇するものは運動的な遊びであり、男女により差異の著しいものは、再現的な遊びであり、構成的な遊びと蒐集的な遊びとは年齢が進むにつれて差異が著しく、受容的な遊びは年齢が進むにつれて差異の減少を見せている。

### 三

次に同一調査の中において「親として遊ばせたくない遊び」について回答を求めた結果を述べる。

まず、「遊ばせたくない遊び」が、「ある」と答えたものは

調査児童數八一二名の中、二六・二パーセントであり、「ない」と答えたものは、六四・三パーセント、また「無答」のもの、九・五パーセントであつた。

しからば「遊ばせたくない遊び」として、どのようなものが挙げられているであろうか。この種類を、「ある」と答えた二六・二パーセントの二二三名、二三二件について整理すれば、第二表のようになつてゐる。

第二表 遊ばせたくない遊びの種類

遊びの種類	件數に對する百分率	件數
受容的な遊び	1.3	3
構成的な遊び	31.9	74
運動的な遊び	13.8	32
再現的な遊び	14.2	33
蒐集的な遊び	3.0	7
知的・技能的な遊び	3.9	9
不定型な遊び	6.0	14
回答不確かな遊び	4.7	11
現在よく相好遊	13.4	31
好遊	3.4	8
その他	4.3	10

このおのおのについて、主要な事例を挙げれば(括弧内は件數)、受容的な遊びとしては、ゴムを口に入れる(三)、構成的な遊びとしては、火遊び(二)、泥いたす(四五)、水いたす(二二)、運動的な遊びとしては、石なげ(二〇)、木のぼり

(二)、再現的な遊びとしては、戦争ごっこ(二)、ままごと(四)、やみ屋ごっこ(一〇)、やみ市ごっこ(六)、泥棒ごっこ(三)、お醫者ごっこ(三)、蒐集的な遊びとしては、とんぼ取り(四)、知的技能的な遊びとしては、めんこ(三)、べしごま(三)、勝負事(三)、不定型の遊びとしては、しごめる(二)、畑あらし(三)等がある。

また、非具體的で回答の表現不確なものには、危険な遊び(四)、わるい言葉をおぼえる遊び(二)等があり、好ましくない遊び場所を挙げたものには、道路で遊ぶ(九)、川遊び(九)、池遊び(二)、マーケットへ行く(二)等があり、好ましくない遊び相手を挙げたものには、大きな子と遊ぶ(二)、男の子と遊ぶ(二)、わるい子と遊ぶ等があり、その他の中には、はだしで遊ぶ(二)、双物で遊ぶ(二)、公園へひとりで行く(二)、けんか(二)等が含まれている。

これ等親から「遊ばせたくない」と考えられている遊びを概観すると、第一に身體的に自他の危険をまねく恐れのあるものが挙げられている(例、ゴムを口に入れる、石投げ)。第二には精神的に好ましくない影響を興える傾向のものが答えられている(例、やみ屋ごっこ、めんこ)。しかしまた第三に遊びそのものとしては決して悪くないものも示されてをり(例、泥いたずら・水いたずら)。また必ずしも常に好ましくないとはいえぬ種類のものも掲げられている(大きな子と遊ぶ・木のぼり)。

#### 四

以上この調査によつて得られた事實を述べたが、ここに述べたところは、なお大きな調査の一部分であること、調査兒童が東京都内のものを主としてあり、地區的な考察に及んでいないこと、調査時日が夏季に限られていることなどで、いまだ十分な調査とはいえないが、上記の制約の下に、幼児の遊びについて、その傾向をある程度示していよう。なお、たとえば構成的な遊びと概括してしまつたが、積木の傾向とぬりえの傾向とは、どのような同異が存するか、というような個々の點については、他日報告することとする。

幼児保育の見地から特に注意しなければならぬことを若干述べるならば、「遊ばせたくない遊び」を挙げている親の比較的少數なところから、親にもつと幼児の遊びについての關心をもたせること、「水いたずら」のような遊びは幼児の立場から見直さねばならないこと、「木のぼり」等は幼児の欲求を充足し得るような環境を興えてやること、「道路で遊ぶ」ねばならない幼児達のために、幼児の遊び場を整備すること、再現的な遊びには好ましくない社會的影響を受け易いから、その環境の改善に努力すること、女兒において特に構成的な遊びを發達させるように誘導すること等が考慮されるであらう。